

あすひあ登録団体の紹介 こんな活動をしています vol. 17

登録団体の中で取材を希望する団体は
あすひあまでお知らせください。

広報部会の部員が伺います！

小平市民後見を考える会

「後見人」という言葉は知っていても、それに「市民」が付くと「？」な私に、メンバーの由井さん、藤崎さん、松前さんが丁寧に教えてくれました。

— 後見人って財産のあるお金持ちの人のものでは？

もちろん後見人の役割には財産を守る「金銭管理」がありますが、もう一つ大切なものは「身上監護」というものがあり、認知症や精神障害などで判断能力が不十分になった人でも、その人がその人らしく人生を過ごせるためのお手伝いをします。

— 市民後見人ってどんな人がなれるの？

法律上は誰でもなれるので、弁護士や司法書士、社会福祉士などの専門家が依頼を受けることが多いですが、少子高齢化が進むこれからの社会では多くの人に後見人が必要となり、同じ市民としてより細やかなサポートができる市民後見人が注目されています。

3人が活動する「小平市民後見を考える会」は、東京大学主催の「市民後見人養成講座」の7期生を中心に一昨年から活動をはじめ、将来的にはNPO団体として依頼を受けられるよう準備を進めているとのことです。またそれと同時に後見人という制度や市民後見人自身を知るために、集中講座を開催したり、元気村まつりなどに参加しています。

同じ地域に住む隣人として、隣人を支える。当たり前のように思えるけれども、それに専門知識を学んだ市民後見人が加われば、さらに心強いに違いない。終始穏やかで、笑顔が素敵な由井さんたちと話しているとついいつい時間を忘れるほど。こんな風にゆっくり話せる人が身近にいることは、とても大事だと感じました。(S)



▲ 代表を務める由井さん。
写真は2015年の元気村まつり



DATA
活動日●月1回の例会
会費●なし
連絡先●090-8492-4939（代表：由井 敬）
＊会では一緒に活動してくれるメンバーを募集しています。
お問い合わせは上記連絡先まで。

国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター病院 家族会 むさしの会

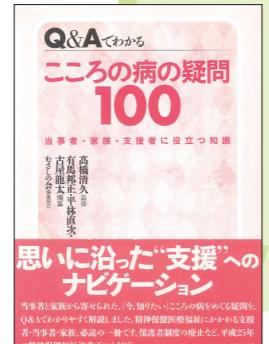
統合失調症、うつ病、躁うつ病などの精神疾患を持つ人を身内に抱える家族が集まり、悩みを語り合い、互いに支え合う「家族会」は、現在、病院を基盤にした家族会と地域を基盤にした家族会を合わせて都内に52、全国に1200あります。



1999年に国立精神・神経医療研究センター病院の患者の家族が病院の理解と支援を得て発足した家族会が「むさしの会」です。すぐに家族が思っていることを話せるホット・スペースになり、明るい笑顔がいっぱいになりました。今は、医療、心理、自立支援の課題などをセンター病院の医師から学習する活動もしています。

「当事者の病気を理解し、暮らしの変化を理解して、最も効果がある会話をすることが家族の大変な役割なのです」と、会長の住本知子さん。

毎月1回、第4土曜日の午後1時から4時半まで病院内にあるコスモホールで行っている定例会では、おしゃべりする前に学習会を行っています。精神疾患、社会資源、制度等について、センター病院の医師が講師として大変わかりやすく説明されていて、家族には有益。「病院と患者の家族が車の両輪です、とおっしゃっていただけるのは感動です」(住本会長)。



▲ むさしの会が編集協力した『こころの病の疑問100』(中央法規出版・発行)

1月29日に行われた月例学習会、功刀浩医師が講師の「リカバリーリー役立つ生活習慣～食事と運動で認知機能改善～」は、家族会以外の人も参加できることもあって会場は満員。男性や若者の姿も見られました。むさしの会では、病院のデイケア祭り、小平市の元気村まつり、東村山市のボランティア祭りにも参加して地域の人にも理解してもらう活動にも力を入れています。

学習会の後に行われる懇談会は、困っていること、悩みや苦しみを抱えている人は胸襟を開いて話し、それを聞く人は慰め、励まして苦悩を和らげ、うれしい話は喜びを分かち合う会。懇談会になると、みなさん、お茶を飲みお菓子を食べながらくつろいで、おしゃべりされていました。正に「家族会」、こういう場が大切ですね。(き)

DATA
活動日●毎月第4土曜日午後1時～4時半(8月・12月を除く)
活動場所●国立精神・神経医療研究センター 病院内の事務所とコスモホール
会員数●個人会員90人、賛助会員20人
連絡先●電話 & FAX: 042-572-6028 (住本)
*面接、電話による相談は主に住本会長が受けています。

いきいき93

個性的な団体名に引かれて、昨年4月に「20周年記念誌」を完成させた「いきいき93」の代表、小林晋作さんに思い出を中心にお話を聞きました。

ボランティア団体の「いきいき93」は、1993年のシニアボランティア入門講座後、設立されたので数字の93が団体名についています。さらに「93」には「93才までいきいきと暮らせるように」という会員たちの願いが込められています。そして実際に93才の会員は、身の回りのことは自分でしていると聞いて驚きました。これもボランティア活動で培われた、人生への取り組み方とつながっていると思いました。ボランティア活動への理由を尋ねると、小林さんも会員たちも「社会への恩返し」という答えが返っていました。

記念誌に書かれている「小さな旅小平」は、市内の公園が高齢者・障害者にやさしいかどうかの調査から始まっています。くるめ園でのボランティアを尋ねると、

「納涼祭でビールを売ったんだよ」と小林さんは楽しそうに答えました。施設や福祉会館でのお茶交流会もしてきました。女性たちのおしゃべりが役立ったようです。福祉バザーの手伝いもしてきました。

小林さんも会員も高齢になり、今では新年会と総会の年2回、集まって話し合いをしています。またその日までに

してきたボランティアの話をしたり、健康についての話をしたりしています。10月1日には赤い羽根共同募金で駅頭に立ちます。この募金の一部が地域活動団体の助成金になります。これからも難儀をしている地域の高齢者にはボランティアをする気持ちで接しながら、長年の活動から「せっかくできた会員同士のつながりを大切にしていきたい」と話す言葉は控えめですが真っ直ぐに生きる強い気持ちが伝わってきました。(T)



▲ 2016新年会の写真

DATA
活動日●不定期
活動場所●福祉会館、施設ほか
会員数●17人
連絡先●042-343-2583 (小林)
skobay@jcom.home.ne.jp